

～ 食と緑が支える豊かな暮らしをめざして ～

食と緑の豊田加茂地域レポート 2025

— 2024 年度の実績報告 —



2026年1月

愛知県豊田加茂農林水産事務所



表紙写真の説明

(林務課) あいち森と緑づくり事業で 整備された里山林と管理歩道	(森林整備課) 荒廃した溪流に設置した 治山ダム
(建設課) 耐震化された枝下用水の 幹線水路	
(農業改良普及課) ハクサイ生産者による 早生品種の比較試験	(農政課) 日光を遮って栽培する茶園

レポート中、「豊田加茂農林水産事務所の管内（豊田市、みよし市）」は「管内」としました。「農業協同組合」は「農協」としましたが、固有名称については「JA」と表記しました。

単位は、下記の表記としました。

「長さ」・・・メートル「m」、キロメートル「km」

「面積」・・・アール「a」、ヘクタール「ha」、
平方メートル「m²」、平方キロメートル「km²」

「体積」・・・立方メートル「m³」

「重さ」・・・キログラム「kg」、トン「t」

目次

I 食と緑の地域レポート 作成の趣旨	2
II 豊田加茂地域重点推進プランの施策体系図	3
III 2024年度の主な取組	
目指す姿	
① 新規就農者の確保	4
② 効率的な森林整備を担い得る技術者の確保・育成	5
③ 戦略を推進する新たな取組と拡充	6
④ 新技術及び優良品種・品目の導入	7
⑤ 施設の更新整備と耕作放棄地の適切な保全	8
⑥ 高性能林業機械による木材生産量	9
⑦ 林道整備・保全延長	10
⑧ 街道事業者の取組内容の紹介等	11
⑨ あいち森と緑づくり事業実施箇所における地域住民等による森林保全活動	12
⑩ 小中学生等による体験放流を通じた河川への理解醸成	13
⑪ 農業用排水機場・排水路・ため池の耐震化等により守られる面積	14
⑫ 枝下用水幹線水路の耐震化により守られる面積	15
⑬ 治山施設の整備により山地災害に対する防災機能向上が図られる面積	16
IV 重点推進事項別の数値目標達成状況	17
＜ 地域トピックス ＞	
○ 「関西茶業振興大会」の出品茶審査会で豊田市の茶が高評価	18
○ ドローン空撮を利用したキャベツ畑の排水性改善	19
○ 農業農村整備事業のPRをしました	20
○ あいち木づかいフェアを開催しました	21
○ 循環型林業を推進するため、森林を育てる保育管理の負荷軽減に取り組んでいます	22

I 食と緑の地域レポート 作成の趣旨

愛知県では、2004年4月に「食と緑が支える県民の豊かなくらしづくり条例」を施行し、県民との協働・連携に努めながら、安全で良質な農林水産物の持続的な生産と供給の確保及び森林等の多面的機能に対する県民の理解と活動の促進に関する様々な施策に取り組んできました。

また、2020年12月には本条例の実現に向け、第4期の計画となる「食と緑の基本計画2025」を策定・公表しましたが、豊田加茂地域においても地域の特色や実情を踏まえ、2025年度までの目標とその目標達成のための取組等を明らかにした「食と緑の基本計画2025豊田加茂地域重点推進プラン」を作成し、この計画の実現に向けて各施策を総合的かつ計画的に推進しています。

この地域レポートは、計画の進行管理の一つとして、地域推進プランに掲げる施策目標の達成状況を把握し、プランの構想を実現するための今後の取組方法等について関係者の共通認識を深めるとともに、各種事業を推進するに当たって、地域の実情を踏まえた有効かつ適切な事業調整を進めるための資料として、2024年度（令和6年度）の対応状況を中心に取りまとめたものです。

Ⅱ 豊田加茂地域重点推進プランの施策体系図

「食と緑が支える県民の豊かな暮らし」の実現に向けて

柱1：生産の柱

持続的に発展する農林水産業の実現

- (1) 担い手の確保・育成
 - ① 新規就農者の確保
 - ② 効率的な森林整備を担い得る技術者の確保・育成
- (2) 産地戦略による生産力パワーアップ
 - ③ 戦略を推進する新たな取組と拡充
 - ④ 新技術及び優良品種・品目の導入
- (3) 農業基盤整備と地域営農の推進
 - ⑤ 施設の更新整備と耕作放棄地の適切な保全
- (4) 資源を生かす林業の実現
 - ⑥ 高性能林業機械による木材生産量
 - ⑦ 林道整備・保全延長

柱2：暮らしの柱

農林水産の恵みを共有する社会の実現

- (5) 活力ある農山村の実現
 - ⑧ 街道事業者の取組内容の紹介等
 - ⑨ あいち森と緑づくり事業（里山林整備）実施箇所における地域住民等による森林保全活動
 - ⑩ 小中学生等による体験放流を通じた河川への理解醸成
- (6) 農山村の防災・減災対策の推進
 - ⑪ 農業用排水機場・排水路・ため池の耐震化等により守られる面積
 - ⑫ 枝下用水幹線水路の耐震化により守られる面積
 - ⑬ 治山施設の整備により山地災害に対する防災機能向上が図られる面積

Ⅲ 2024年度の主な取組

1 持続的に発展する農林水産業の実現

(1) 担い手の確保・育成



目指す姿 ① 新規就農者の確保

農業改良普及課

【施策の趣旨】

将来にわたって農産物を安定的に供給できる農業構造を実現するため、農家の後継者を始め、農業法人への雇用就農や定年帰農を含む新規就農、企業やNPOの農業参入により新しい担い手を幅広く確保し、定着を図ります。

【具体的な取組内容】

新規就農説明会を6月に開催し、10人の参加がありました。また、豊田加茂地域への新規就農希望者17人から就農についての個別相談があり、延べ33回対応しました。

これらを通して就農が具体化した11人に、栽培品目ごとの収量や販売単価等の情報を提供するなど相談を重ねて、青年等就農計画の作成を支援しました。また、豊田市、みよし市の農業研修機関の運営を支援しました。

【取組の成果】

新規就農者数：5人

当事務所が実施した集団や個別での就農相談、青年等就農計画の作成支援等を通して、就農しました。



新規就農説明会

就農形態内訳	
就農形態	人数
新規学卒	0
Uターン	1
新規参入	4
(独立自営)	4
(雇用就農)	0
合計	5

住所内訳	
住所地	人数
豊田市	4
みよし市	0
その他	1
合計	5

【今後の取組】

引き続き、市や農協等と連携しながら、個別相談により新規就農希望者の計画的就農を支援し、定着に取り組めます。

② 効率的な森林整備を担い得る技術者の確保・育成

森林整備課

【施策の趣旨】

本格的な利用期を迎えた森林資源を活用し、今後増加が見込まれる木材需要に対応するため、林業を担う人材の確保と林業技術者の育成を進めます。

【具体的な取組内容】

林業を担う人材の確保のため、公益財団法人愛知県林業振興基金等と連携して、一般の方を対象とした林業の仕事ガイダンスと林業体験及び作業見学ツアーを各1回（延べ32人）実施しました。

また、林業高校生を対象とし、木材生産体験と見学会を各1回（延べ41人）実施しました。

この他、林業経営体の林業技術者の育成のために、地形データ等の活用支援や植栽研修、安全作業の順守のため、巡回指導等を延べ55回実施しました。



木材生産体験



若手作業員に対する植栽研修

【取組の成果】

新規林業就業者数：20人

就業形態内訳	
就業形態	人数
新規学卒	5
再就職	15
合計	20

出身住所別内訳	
住所地	人数
豊田市	14
みよし市	0
県内（管外）	4
県外からのI・Uターン	2
合計	20

【今後の取組】

引き続き、関係機関と連携して、新規林業就業者の確保に努めるとともに、林業技術者の育成や安全作業の定着に取り組めます。

(2) 産地戦略による生産力パワーアップ



目指す姿 ③ 戦略を推進する新たな取組と拡充

農政課

【施策の趣旨】

高齢化による担い手不足などの課題をもつ産地において、「人」、「農地」、「生産技術」、「施設等」、「販売」の5つの視点から産地戦略を作成しており、関係機関と連携し、補助事業の活用等を通じて、目標達成に向けた具体的な取組を推進し、産地の維持・発展を図ります。

【具体的な取組内容】

- 補助事業による産地戦略の取組支援
 - 4産地の支援を行いました。
- 新たな戦略策定と既存戦略の見直し
 - 部門別会議等により、ぶどうの産地戦略の新規策定、桃・梨・柿、いちご、茶の3産地の産地戦略の見直しを支援するとともに、全産地の進捗状況を確認しました。

産地戦略一覧				
No.	品目	産地	策定年度	直近見直年度
1	なす	豊田市・みよし市	2019	2022
2	はくさい	豊田市・みよし市	2020	2022
3	桃・梨・柿	豊田市	2019	2024
4	いちご	豊田市	2019	2024
5	茶	豊田市	2019	2024
6	水稻・麦・大豆 ・飼料作物	豊田市 (平坦部)	2020	2023
7	水稻・麦	みよし市	2020	-
8	ぶどう	豊田市	2024	-

【取組の成果】

- 補助事業による産地戦略の取組支援（4産地）
 - 桃・梨・柿（豊田市）
 - あいち型産地パワーアップ事業（スピードスプレーヤーの導入、乗用モアの導入）
 - 茶（豊田市）
 - あいち型産地パワーアップ事業（風力選別機・ベルトコンベア等・袋詰機の導入、磁気付きステンレス金網の導入）
 - 水稻・麦・大豆・飼料作物（豊田市）
 - あいち型産地パワーアップ事業（乗用管理機・高速汎用播種機の導入、可変施肥田植機・収量コンバインの導入）
 - 水稻・麦（みよし市）
 - 麦・大豆生産技術向上事業（ドローンの導入）
- 新たな戦略策定と既存戦略の見直し（4産地）
 - 1産地（ぶどう）において、産地戦略が新たに策定されました。
 - 3産地（桃・梨・柿、いちご、茶）において、産地戦略が見直しされました。



導入された乗用管理機

【今後の取組】

引き続き、生産者（組織）、地域農業再生協議会、農協、市と連携し、会議の開催等により補助事業の活用や具体的な取組への支援を積極的に行っていきます。

【施策の趣旨】

ロボット技術やICT(情報通信技術)を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現できる技術の選定と導入を支援します。

野菜、果樹等で気候変動や消費者ニーズに対応できる優良品種の導入を支援します。



キャベツの排水対策で土壌表面を均平化

【具体的な取組内容】

新技術の選定については、①キャベツの排水不良圃場においてドローンによる空撮画像をもとに地面の起伏を可視化し、このデータに従って圃場別に排水改善対策を行いました。②イチゴ圃場で環境モニタリングデータに基づき、育苗環境の改善を支援しました。③酪農家の哺乳ロボットの導入状況について調査しました。

優良品種の選定について、ハクサイの早生品種について比較試験を行いました。



イチゴほ場でハウス内環境をモニタリング

【取組の成果】

キャベツの排水不良圃場においては、対策を行ったことにより、収量が18%増加しました。また、イチゴ圃場では、温度データに基づき、育苗ベンチのレイアウト変更、循環扇の設置等を行い、育苗期の病害を減らすことができました。哺乳ロボットについては、導入効果や導入に当たっての判断基準を明確化することができました。

優良品種の選定については、ハクサイの早生品種「黄づつみ78」について、昨年度より面積拡大して試作をしたところ、生産者からは好適品種と認められ、次年度からは部会で取り扱う品種として選定されました。



ハクサイの優良品種「黄づつみ78」

【今後の取組】

引き続き、新技術及び優良品種・品目の導入に向けて現地実証と栽培指導を行います。

(3) 農業基盤整備と地域営農の推進



目指す姿 ⑤ 施設の更新整備と耕作放棄地の適切な保全

建設課

【施策の趣旨】

担い手への農地の集積・集約化や生産コストの削減を促進するため、生産性の向上を図る農地の整備を推進するとともに、将来にわたって耕作放棄地の拡大防止を図り、農地の生産性を維持するため、農業水利施設などの適期、適切な整備・更新を推進します。

【具体的な取組内容】

農地環境整備事業つくば地区・下山地区・大野瀬地区、西中山地区の4地区で、老朽化した農業水利施設（用水路・排水路）の整備・更新、暗渠排水等の工事及び設計を行いました。

経営体育成基盤整備事業狸山地区では、新規採択に向け計画策定を行いました。

【取組の成果】

中山間地域となる旧旭町、旧下山村、旧稲武町、旧藤岡町において農地環境整備事業を実施し、施設の整備・更新を進めており継続的な営農のための基盤を整備しています。



工事前の用・排水路
(大野瀬地区)

【今後の取組】

引き続き、実施中の地区の完了に向けて、土地改良区や地元工区等の関係者と調整しながら事業を推進し、農業生産基盤の整備工事を行っていきます。



工事により整備された用・排水路
(大野瀬地区)

(4) 資源を生かす林業の実現



⑥ 高性能林業機械による木材生産量

森林整備課

【施策の趣旨】

高性能林業機械を活用した木材生産の効率化に取り組み、木材の安定供給を推進します。

【具体的な取組内容】

木材生産の効率化の前提となる施業の集約化のために、森林組合等が行う森林経営計画の策定を支援しました。

(計画策定面積：213ha)

林業経営体による高性能林業機械の導入計画の策定や、木材生産現場における効率的な運用を指導しました。



フォワーダによる運材状況

また、利用期を迎えた森林資源を活用するため、「伐る・使う→植える→育てる」循環型林業による木材生産を促進するとともに、新たな植栽と獣害対策に対する助成（あいち森と緑づくり事業）を行いました。(8ha)

【取組の成果】

高性能林業機械による木材生産量 40,500 m³

【今後の取組】

引き続き、林業経営体が行う、木材の生産性を高める取組に対して、支援・指導します。

管内林業経営体の保有する高性能林業機械の推移

単位：台

機種名	機能	2020年度末	2024年度末時点	増
スイングヤーダ	材の掴み+架線集材	10	10	0
タワーヤーダ	支柱を備えた架線集材	0	1	1
フォワーダ	材の掴み+運材	8	11	3
プロセッサ	材の掴み+造材	10	10	0
ハーベスタ	立木伐倒+造材	2	2	0
フェラーバンチャ	立木伐倒+掴み	3	4	1
計		33	38	5

保有のうち主に県内で稼働した機械数

【施策の趣旨】

木材生産や間伐等の森林整備を効率的に実施するため、林道を整備・保全します。

【具体的な取組内容】

県営事業による林道開設を行うとともに、豊田市が行う開設・改良・危険地対策・舗装工事に対し、単独県費補助事業により支援しました。

県営の代行林道事業は「たひらさわひらせせん田平沢平瀬線」と「かしょうぜかしわぼらせん河上瀬柏洞線」の2路線において、開設工事を進めました。

また、豊田市が事業主体となり実施する単独県費補助の小規模林道事業は13件、19路線に対し補助金を交付しました。

【取組の成果】

林道の整備・保全延長 3,994m

(内訳:開設164m 改良1,966m 危険地対策205m 舗装1,030m)

【今後の取組】

引き続き、木材生産や間伐等の森林整備の効率化を図るため、林道の整備・保全を推進します。



県営事業による林道開設



補助事業の改良による法面保護

2 農林水産の恵みを共有する社会の実現

(5) 活力ある農山村の実現



目指す姿 ⑧ 街道事業者の取組内容の紹介等

農政課

【施策の趣旨】

「食と花の街道認定事業」の認定を受け、豊田市内で活動している「とよた五平餅街道」と「いなぶジビエグルメ街道」の魅力を広く発信します。

【具体的な取組内容】

「とよた五平餅街道」と「いなぶジビエグルメ街道」の店舗を取材し、その情報を事務所 web ページに掲載しました。



滝川ふれあい工房の五平餅

【取組の成果】

- ・とよた五平餅街道 5店舗
 - 一福 (西町)
 - もみじ堂(足助町)
 - 滝川ふれあい工房 (大内町)
 - 妙楽寺休み茶屋 (花沢町)
 - 壺利岐(花沢町)
- ・いなぶジビエグルメ街道 2店舗
 - charcoal (浄水町)
 - いなぶジビエグルメ街道スタンプラリー



Charcoal のハム盛り合わせ

【今後の取組】

引き続き、街道事業者の店舗等を取材し、その情報を、事務所の web ページに掲載し、街道の魅力を広く発信していきます。



「食と花の街道認定事業」は「いいともあいち運動」活動の一環です



web ページは、二次元コード又は以下の URL から御覧ください。

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/toyotakamo-nourin/syokuhanatoyotakamo.html>

⑨ あいち森と緑づくり事業（里山林整備）実施箇所における地域住民等による森林保全活動

林務課

【施策の趣旨】

県土や自然環境の保全、水源の涵養、洪水の防止などの森林が有する多面的機能を十分に発揮させるため、地域住民等による森林の保全活動を推進します。



【具体的な取組内容】

あいち森と緑づくり事業（里山林整備）により、森林の持つ多面的機能の発揮に向けた取組（間伐、竹林整備、管理道・管理歩道整備、排水施設整備等）を支援しました。

新たな事業要望地においては、地元説明会・現地検討会に参加し、事業実施後の里山林の保全活動の大切さを説明・助言をすることにより、地域住民等の理解促進に努めました。



里山林整備事業により整備された
森林(上)と管理道(下)
(豊田市押井町)

【取組の成果】

地域住民等による森林の保全活動面積：4.9 ha

（内訳） 2023年度までの、あいち森と緑づくり事業地での保全活動面積 4.5 ha

2024年度から、同事業地での活動を開始した保全活動面積 4 ha

【今後の取組】

引き続き、説明会などを通して、地域住民等による森林の保全活動を推進します。

目指す姿 ⑩ 小中学生等による体験放流を通じた河川への理解醸成

農政課

【施策の趣旨】

内水面漁業の振興を図るため、小中学生等を対象とした体験放流を通じて、河川や魚類への関心を高め理解醸成を進めていきます。

【具体的な取組内容】

管内の漁業協同組合が主催する小学生等を対象とした稚あゆの体験放流会の時期や内容について助言を行い、併せて体験放流会時に出前授業（あゆの生態、愛知県で獲れる魚等の紹介）を実施しました。



出前授業

【取組の成果】

体験放流会は3漁協（名倉川漁協・矢作川漁協・巴川漁協）で4月から6月にかけて10回実施され、小学生等延べ226人が参加しました。



あゆを放流する子どもたち

【今後の取組】

引き続き、漁協が開催する体験放流会を支援し、参加した小中学生等が河川や魚類への関心を高め、理解醸成が図られるよう、助言・提案を行っていきます。



放流するあゆの観察・ふれあい

(6) 農山村の防災・減災対策の推進



目指す姿 ⑪ 農業用排水機場・排水路・ため池の耐震化等により
守られる面積

建設課

【施策の趣旨】

巨大地震や集中豪雨等による自然災害から県民の生命・財産や暮らしを守るため、農村地域の防災・減災対策を推進します。

【具体的な取組内容】

たん水防除事業では、上郷2期地区で排水機場の更新整備を継続して実施し、市木川地区で実施設計を行いました。

防災ダム事業では、明知地区始め7地区のため池の耐震化工事等を行いました。

また、大坂池地区では新規採択に向け計画策定を行いました。

緊急農地防災事業（老朽ため池整備）では、切山池1号地区の改修工事を継続して実施しました。



耐震化工事を終えた椀貸池
(防災ダム事業 椀貸池地区 池の内側)

【取組の成果】

洪水や地震被害のリスクから地域を守るため、実施中の地区の更新整備や耐震化工事を進めました。



堤体押さえ盛土の施工状況
(防災ダム事業 明知地区 多羅釜池 池の内側)

【今後の取組】

引き続き市と土地改良区等関係者と調整しながら、実施中の地区での事業の推進と新規地区の計画作成を進め、耐震化等の整備を行います。

【施策の趣旨】

巨大地震による枝下用水幹線水路の被災に伴う二次災害から県民の生命・財産や暮らしを守り、農業用水の安定的な供給を図るため、枝下用水幹線水路の震災対策を推進します。

【具体的な取組内容】

震災対策農業水利施設整備事業 枝下用水地区及び枝下用水2期地区で用水路の耐震構造への全面改修工事を進めました。

また、枝下用水地区では、高盛土部の地盤改良による耐震化工事を併せて実施しました。



枝下用水幹線水路の改修工事
(枝下用水地区)

【取組の成果】

巨大地震による枝下用水幹線水路の被災に伴う二次災害の被災リスクから守られた地域の面積： 59ha

枝下用水地区 21ha

枝下用水2期地区 38ha



工事が完了し耐震化された枝下用水幹線水路
(枝下用水地区)

【今後の取組】

引き続き市及び土地改良区並びに地域住民の方等の関係者と調整しながら事業を推進し、枝下用水幹線水路の耐震化を行っていきます。

⑬ 治山施設の整備により山地災害に対する防災機能向上が図られる面積

森林整備課

【施策の趣旨】

巨大地震や集中豪雨等による自然災害から県民の生命・財産や暮らしを守るため、農山村地域の防災・減災対策を推進します。

【具体的な取組内容】

土砂の流出や山崩れなどの山地災害の復旧と予防を目的とし、荒廃溪流へは治山ダムを設置し、山腹崩壊地へは土留工等の山腹工事を実施するなど、26か所で治山施設を整備しました。

【取組の成果】

山地災害に対する防災機能向上が
図られた面積 128ha（26か所）
（内訳）公共事業 111ha（8か所）
単県事業 17ha（18か所）



荒廃溪流に設置した治山ダム

【今後の取組】

今後も、山地災害の危険性が高い箇所について、治山工事を計画的に実施します。



山腹崩壊地に施工した補強土工

IV 重点推進事項別の数値目標達成状況

柱1：生産の柱

持続的に発展する農林水産業の実現

重点推進事項	目指す姿	2025 目標数値 (※累計値)	2021	2022	2023	2024	2025
			実績の推移 (目標数値が累計値の項目の括弧書きは年度実績)				
(1) 担い手の確保・育成	① 新規就農者の確保	毎年 15人	23	14	15	5	
	② 効率的な森林整備を担い得る技術者の確保・育成	毎年 12人	18	16	21	20	
(2) 産地戦略による生産力 パワーアップ	③ 戦略を推進する新たな取組と拡充	※ 5年間で 10件	4	(6) 10	(6) 16	(8) 24	
	④ 新技術及び優良品種・品目の導入	※ 5年間で 4件	2	(3) 5	(1) 6	(4) 10	
(3) 農業基盤整備と地域営農の推進	⑤ 施設の更新整備と耕作放棄地の適切な保全	(つくば地区) ※ 5年間で 59ha	<進捗率> <48%> 0	<57%> 0	<67%> 0	<78%> 0	
(4) 資源を生かす林業の実現	⑥ 高性能林業機械による木材生産量	5年後に 40千m ³	38,640	35,700	39,800	40,500	
	⑦ 林道整備・保全延長	毎年 3,100m	3,395	4,680	4,061	3,994	

柱2：暮らしの柱

農林水産の恵みを共有する社会の実現

重点推進事項	目指す姿	2025 目標数値 (※累計値)	2021	2022	2023	2024	2025
			実績の推移 (目標数値が累計値の項目の括弧書きは年度実績)				
(5) 活力ある農山村の実現	⑧ 街道事業者の取組内容の紹介等	※ 5年間で 30箇所	8	(7) 15	(6) 21	(7) 28	
	⑨ あいち森と緑づくり事業(里山林整備)実施箇所における地域住民等による森林保全活動	※ 5年後に 43ha	39	(1) 40	(5) 45	(4) 49	
	⑩ 小中学生等による体験放流を通じた河川への理解醸成	※ 5年間で 30回	7	(9) 16	(8) 24	(10) 34	
(6) 農山村の防災・減災対策の推進	⑪ 農業用排水機場・排水路・ため池の耐震化等により守られる面積	※ 5年間で 451ha	55	(34) 89	(49) 138	(0) 138	
	⑫ 枝下用水幹線水路の耐震化により守られる面積	※ 5年間で 231ha	108	(60) 168	(69) 237	(59) 296	
	⑬ 治山施設の整備により山地災害に対する防災機能向上が図られる面積	毎年 127ha	114	114	121	128	

「関西茶業振興大会」の出品茶審査会で豊田市の茶が高評価

農政課

【取組の趣旨】

関西・東海の茶生産が盛んな6府県（愛知、岐阜、三重、滋賀、京都、奈良）では、茶の生産技術や品質向上を図ることを目的に、持ち回りで「関西茶業振興大会」を開催しています。2024年度は本県が開催県となりましたが、豊田市内で開催された出品茶審査会では、豊田市の生産者から出品された茶が多く入賞しました。

【取組内容】

出品茶審査会（7月31日～8月2日、豊田市民文化会館）には、全体で5茶種371点が出品され、このうち豊田市からは、かぶせ茶^{※1}の部で10点、てん茶^{※2}の部で13点出品されました。

個人の部では、簀押翔大氏がかぶせ茶の部で最高賞である農林水産大臣賞を受賞したのを始め、全体で20点の特別賞のうち、4点を豊田市が占めました。

また、市町村を単位とする産地賞では、豊田市がかぶせ茶の部で第1位、てん茶の部で第2位となり、豊田市の茶の生産加工技術が高く評価されました。

【今後の展開】

引き続き、高品質な茶を効率的に生産できるよう各種補助事業等により支援していきます。



出品茶審査会



特別賞受賞者（前列の中央を除く4名）
（事務所表敬訪問、12月5日）

※1 かぶせ茶：収穫前7～10日間前後、日光を遮って栽培した生茶を、蒸した後、揉んで製造した高級茶。

※2 てん茶：収穫前20日間前後、日光を遮って栽培した生茶を、揉まずに乾燥させてフレーク状にしたもの。てん茶を挽いて粉状にしたものが抹茶として販売される。

【取組の趣旨】

管内では、大規模な農業法人が水田転換畑で秋冬キャベツやハクサイ栽培に取り組んでいますが、もともと水田であるため、野菜類を栽培しにくい排水不良の畑が目立ちます。そこで農業改良普及課は、スマート農業技術を利用した排水性改善方法を農業者に提案し、農業総合試験場や民間企業などと協力して作業支援や効果検証を行いました。

【取組内容】

ドローンによる空撮画像をもとに、起伏がある場所や起伏の程度を可視化し（図1）、農業法人や関係機関と協力して排水性改善の進め方を検討しました。

農業法人は、画像データに基づいて勾配を減らす均平作業や排水用に溝を掘る作業（明渠（めいきよ）施工）をキャベツの定植前に実施しました。

その結果、キャベツ定植

後には、対策実施畑で生育のばらつきが減少し（図2）、周辺の対策未実施畑に比べて同年の収量が18%増加しました。

取組を実施した農業法人は、排水性改善によるキャベツの増収効果を実感し、他の畑でも実施したいとの意欲を示しました。

【今後の展開】

引き続き、農業法人等で水田転換畑における排水性改善の取組を支援します。このほか、地力の低い畑には、堆肥の投入や緑肥のすき込み等による土づくりも推進し、秋冬キャベツやハクサイの生産安定を図ります。

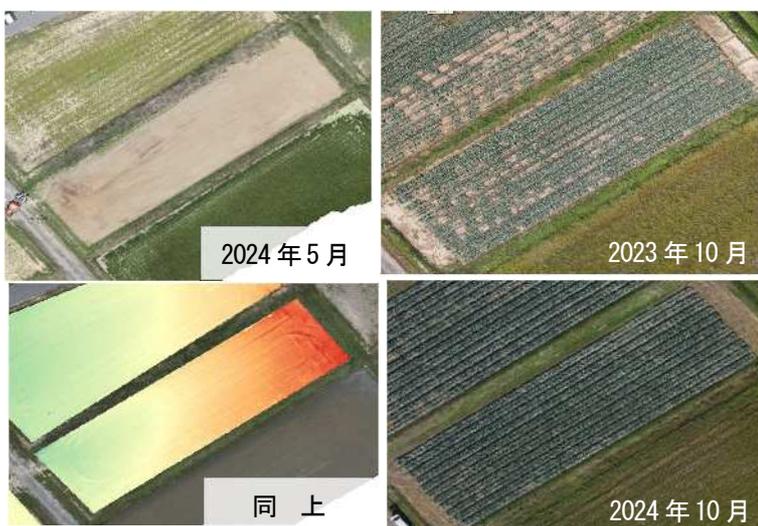


図1 畑の空撮画像(上)と畑の起伏を可視化した画像(下:赤色が濃いほど低く排水不良が生じやすい)

図2 畑の排水対策前後に見るキャベツ生育の様子(上:対策前年、下:対策当年)

農業農村整備事業のPR活動を行いました

建設課

【取組の趣旨】

農地や農業用水、農業農村整備事業等の役割や効果等について、県民の皆様の理解を深めてもらうために関係団体等と連携し、以前よりPR活動を行っています。

農業農村整備事業を実施する必要性を農家や担い手だけではなく、住民の方にも理解してもらえるようにします。

【取組内容】

9月22日の矢作川感謝祭におけるパネル展示を始めとして、管内で行われているイベント時に、農地の多面的機能を維持するための活動紹介、枝下用水の耐震化工事の説明に関するパネル展示や管内の小学校の生徒に対して出前授業を行う等、広く住民の方へのPR活動を行いました。



パネル展示の様子



出前授業の様子

実施日	場所	内容	イベント名
9月22日	豊田市博物館	パネル展示	矢作川感謝祭
12月4日	枝下用水	出前授業	
3月7日	枝下用水	現地見学会	
3月16日	スカイホール豊田	パネル展示	WE LOVE とよたフェスタ

【今後の展開】

PR活動は農業への理解促進に対し大変効果的と思われるので、今後も引き続き実施していきます。

あいち木づかいフェアを開催しました

林務課

【取組の趣旨】

愛知県の森林・林業、木材利用について、身近に感じてもらうためのPRイベントを12月14日（土）にイオン三好ショッピングセンターで開催しました。

【取組内容】

① 木工体験（箸作り、オーナメント作り）

豊田市産のヒノキの間伐材を材料に、自分たちでカンナをかける箸作り体験や、クリスマスも近いことからオーナメント作りを実施しました。



間伐材を使った箸作り

② 木製遊具の設置

愛知県産材のスギ・ヒノキで作られたウッドプールと積み木を設置し、子供たちに自由に触れて遊んでももらいました。



ウッドプール

③ パネル・パンフレットの展示

近隣の木材利用施設やあいち森と緑づくり事業等を紹介するパネル、あいち認証材等のパンフレットを展示しました。



パネル展示

④ その他

施設内3カ所に森林に関する問題を設置したクイズラリーや、大型モニターで「あいち海上の森センター」や森林・林業に関する動画を流し、愛知県にも豊かな森林があることを紹介しました。

また、「森ずきんちゃん」が登場してイベントのPRを行いました。



森ずきんちゃん

森ずきんちゃん：あいちの森と緑のマスコットキャラクター

循環型林業を推進するため、森林を育てる保育管理の負荷軽減に取り組んでいます

森林整備課

【取組の趣旨】

森林を育てる保育管理で負担の大きい下刈り作業について、作業負荷を軽減するため、通常は夏季に実施する下刈り作業を、気温の低い春季、秋季に実施し、植栽木や周辺の雑草木に与える影響を調査しました。

【取組内容】

県有林内のヒノキ植栽地に3つの調査プロットを設定し、春季（5月）、夏季（9月）、秋季（12月）の各時期に下刈りを行い、作業負荷、植栽木成長量、主な競合植生の高さを調査しています。

夏下刈りに比べて、春下刈り、秋下刈りの方が気温が低い環境での作業のため、疲労感は少なく済みました。

一方、春下刈りでは、下刈り後すぐに雑草木が伸長し、一部の植栽木に被圧が発生しました。また、秋下刈りでは、雑草木の背丈が大きくなり、作業時間が長くなるなどの課題が見られました。

2025年3月時点では、春下刈り、夏下刈り、秋下刈りの全てのエリアで植栽木は順調に生育しています。



春下刈りの作業風景



春下刈りから約3ヶ月後の植栽木

【今後の展開】

引き続き、春、夏、秋に分けて下刈りを行い、植栽木と周辺雑草木の調査を継続するとともに、下刈り作業の省力化に取り組んでいきます。

いいともあいち運動のシンボルマーク

愛称は **あいまる** です！



食と緑の豊田加茂地域レポート2025

愛知県豊田加茂農林水産事務所農政課
〒471-8566 豊田市元城町4-45 豊田加茂総合庁舎内
電話:0565-32-7363(内線340)

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/toyotakamo-nourin/>